

## 海域の概要

本湾は、小松島とも言われ、自然の景勝地となっています。潮干狩りや遊覧観光汽船などの観光漁業のほかに、アサリやノリなどの養殖も行われています。



松川浦

## Specification

### 諸元

湾口幅：0.06 km

面積：6.46 km<sup>2</sup>

湾内最大水深：4 m

湾口最大水深：4 m

閉鎖度指標：4.236

備考：環境基準類型指定水域

## Location

### 範囲または位置

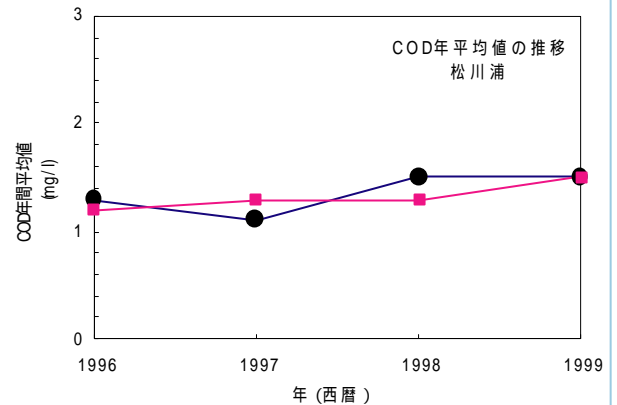
福島県相馬市尾浜字棚脇西端と松川浦漁港囲堤先端を結んだ線、同囲堤及び陸岸により囲まれた海域。



## 環境

松川浦は、小松島とも言われ、潮干狩りや遊覧観光汽船などの観光漁業のほかに、アサリやノリ等の養殖が行われています。

地蔵川・小泉川・宇多川の中小河川が流入し、出口は北の牛鼻毛の1ヶ所となっています。これら流入河川には、生活雑排水などが含まれ汚染源となっています。水質改善のために公共下水道事業や農業集落排水事業、合併浄化槽の設置促進が行われています。その対策もあり、CODの経年変化は2mg/l以下となっており、良好な水質を維持しています。



## 自然

松川浦は、宇多川の堆積作用と外海の侵食作用によりできた砂州により外界と隔てられた潟湖で、松川浦自然公園に指定されています。浦の中には大小数十の島嶼が点在し、周辺のクロマツ林と砂浜を背景にした景観は、「日本百景」にも選出されています。

平均水深は1m程度と浅く、浦北部を中心とするアマモ場の他、アオサ、オゴノリ等の藻場が広がっています。

島嶼、松川浦及び鷓ノ尾岬にはクロマツ林が、その下層にはかん木が生育し、大州浜には防潮林としてクロマツが植栽されています。また、浦内最大の島がある中州には古木然としたクロマツ林があります。

浦内では、ハゼ釣り等周年つりが楽しめる他、海水浴場、潮干狩り場としても利用されています。



松川浦

## 文化歴史

古くは相馬藩の遊休地として栄え、現在もその景観の美しさで訪れる人を魅了する観光拠点となっています。

## 産業

松川浦では、ノリ、アサリ、カキ、ハマグリ等の養殖場となっている他、アオサ等も漁獲されています。特に松川海苔は、福島県の浅海養殖生産高の9割程度を占め、地方の代表的な水産物となっています。また、磯部漁港では、ホッキ貝の生産の中心となっています。

観光業も盛んで、春から秋にかけては潮干狩り、魚釣りに、夏は海水浴に利用され、浦内には遊覧船も就航しています。平成7年には松川浦大橋が完成し、新しい観光スポットとなっています。



松川浦大橋